

福井県の適応策に関する 取組について



平成31年1月30日
福井県安全環境部環境政策課

1 はじめに

2018年は記録的な酷暑に見舞われた

流行語大賞2018のトップ10に「災害級の暑さ」

<全国>

- ・7月23日：埼玉県（熊谷市）で観測史上最高の41.1℃
- ・7月の東日本の平均気温は平年差+2.8℃と過去最高

<福井>

- ・7月29日：福井県（坂井市）で観測史上最高の39.0℃
- ・7月の福井県の平均気温は平年差+3.1℃と過去最高

出典元：気象庁および福井地方気象台の発表資料

気象庁より酷暑に加えて7月の西日本豪雨も地球温暖化が起因していると発表があり、新聞等でも報道され、地球温暖化の影響を身近に感じる機会が増えてきた

2 福井県の適応策

国の「気候変動の影響への適応計画」（H27）の策定を受け、県の適応策を改訂

No.	年	項目	備考
1	H28	気候変動の影響への適応計画に係る関係課長会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> 福井地方気象台の講演 題名：福井県における地球温暖化と異常気象 環境政策課より気候変動の影響や国の取組みを説明
2		各部局へ適応策について照会	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動の現在や将来の影響、実施している（実施予定）施策の調査
3	H29	各部局へ適応策について照会	<ul style="list-style-type: none"> 前年度からの変更点の確認
4		福井県環境基本計画の改訂（H30.3月）	<ul style="list-style-type: none"> 各部局の照会結果から、<u>現時点で把握している気候変動の影響をもとに、適応として機能している既存の施策や方向性を整理し、福井県の適応策と位置づけ、環境基本計画の適応に関する箇所を改訂</u>

2

3 福井県の適応策の概要

県の適応策は福井県環境基本計画の第3編に記載

福井県環境基本計画の目次

第1編	計画の基本的事項
第2編	重点プロジェクト
第3編	分野別施策の展開 第1章 第2章 地球温暖化対策の推進 第1節 県内の温室効果ガスの現状と将来予測 第2節 緩和策の推進 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 第3節 適応策の推進 福井県における気候変動の状況と将来予測 気候変動による影響と適応策 </div> 第4節 県の事務・事業における温室効果ガス排出削減 第3章 第4章 第5章 第6章
第4編	計画の推進
参考資料	

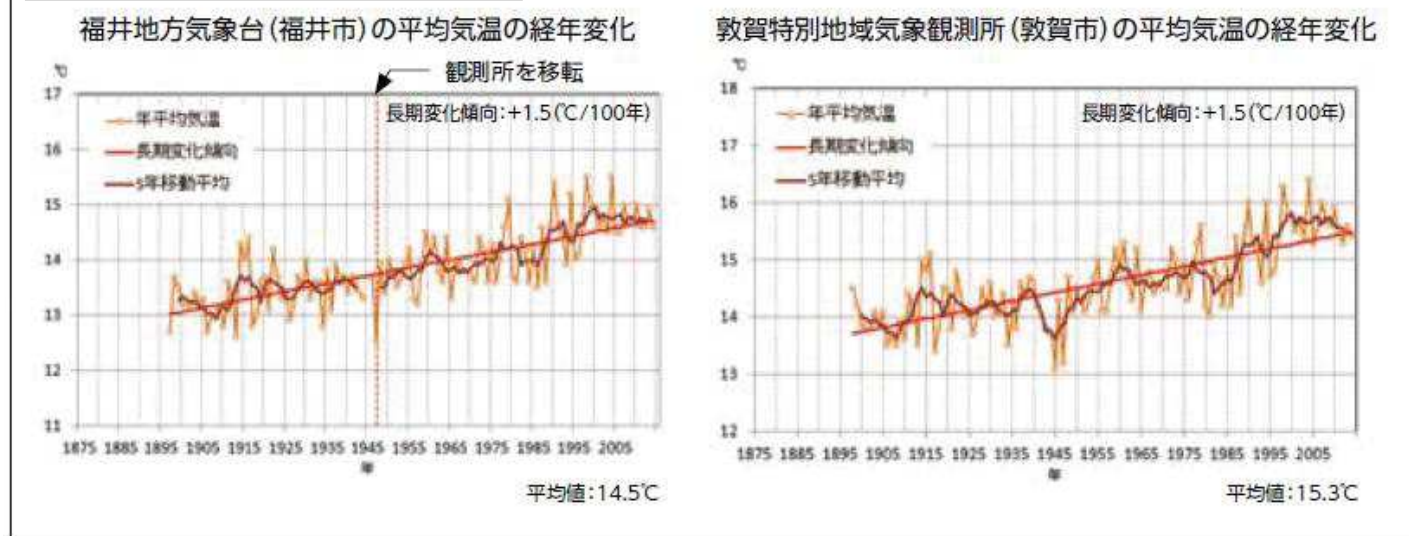
3

3 福井県の適応策の概要

1. 福井県における気候変動の状況と将来予測

- これまでの気候変化（平均気温、年間降水量、最大1時間雨量の変化、年間無降水日数）や将来予測（平均気温、猛暑日日数、1時間降水量50mm以上の回数、降雪量）を紹介

環境基本計画に記載のデータ例



出典：気象変化レポート 2015 —関東甲信・北陸・東海地方—

4

3 福井県の適応策の概要

2. 気候変動による影響と適応策

- 既出の気候変動の影響に対して、農林水産業や生態系、自然災害などの各分野で進めている施策で、適応策として機能しているものを本県の「適応策」として位置付けて紹介

項目	気候変動の影響
農業（水稲）	白未熟粒、胴割米発生の増加
農業（園芸作物）	収穫期の前進化による計画的な出荷の困難化、トマトの着果不良、果実の軟化
水産業	魚種や海藻などの組成や資源量の変動
水環境	水温・水質の変化
水資源	渇水の頻発、長期化
自然生態系（陸域）	野生鳥獣の生息域の変化に伴う農作物被害の増加（狩猟圧の変化も影響）
自然災害（河川）	台風の大型化・短時間強雨増加による大規模な水害発生増加
自然災害（山地）	短時間強雨による土砂災害増加
健康（熱中症）	熱中症患者数の増加
健康（感染症）	蚊の生息域拡大に伴う蚊媒介感染症の拡大

- 今後は、適応策の概念そのものの浸透と更なる影響評価の充実が必要であり、様々なステークホルダーへの普及啓発や県内における気候変動の影響に関する研究、情報収集などを進めていく

5

4 適応策の例（ポストコシヒカリの開発）

参考：ふくいブランド米推進協議会HP

1. 背景

- ・近年の夏の高温により全国的に米の品質の低下が問題視されていた
- ・高温に強くて作りやすく消費者に好まれるおいしさを持つ新品種の要望が高まった

2. 開発

- ・平成23年5月に「ポストコシヒカリ開発部」を新設し、**明確な3つの育種方針の下**、コシヒカリを超える新品種の開発がスタートし、**地道な手作業と最先端の技術**を駆使し、**味にこだわった開発**を進めた。

ポストコシヒカリの育成方針

- ① 消費者の好みに合った味わいのある『おいしい』品種
- ② 暑い夏でもきれいに実り、おいしい味を実現し、倒れにくい品種
- ③ 病気に強く、農薬や化学肥料の使用を減らしても安定して栽培できる
ふるさと福井の自然に負荷が少ない『環境にやさしい』品種

3. 発売

- ・20万種から1品種に選定
- ・10万件の候補から品種名を決定

「いちほまれ」

日本一（いち）美味しい、誉れ（ほまれ）高きお米

- ・平成29年度の試験販売を経て、平成30年9月29日より全国に向け本格販売開始



6

5 適応策の普及啓発

県内の防災関係者向けに実施した講演会で「地球温暖化の進行とともに、気象災害の激甚化、大規模化が進む可能性が高く、防災対応も新たなステージに入った」ことを紹介

防災気象講演会のお知らせ

日時 | 平成30年12月12日(水)
13時30分～16時00分

会場 | 福井県立図書館 多目的ホール

参加費 | 無料

講演

気温の予測

福井県では年平均気温が100年で約4℃上昇

第1講演:
「地球温暖化と防災気象情報
～防災は新たなステージに
に入った～」

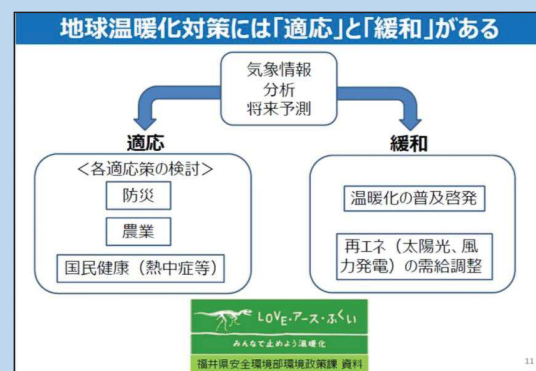
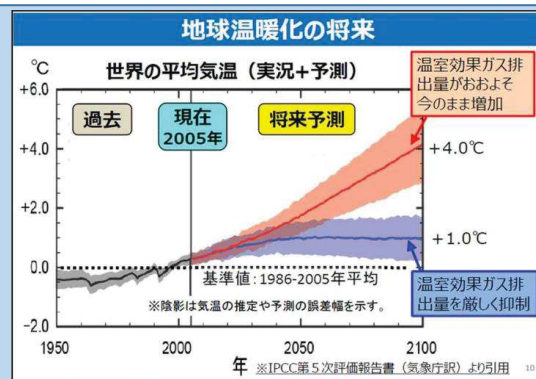
福井地方気象台 台長 磯部 英彦

第2講演:

「赤十字の災害救護活動」

日本赤十字社 福井県支部
総務課長 山本 裕行

主催 | 福井県・福井地方気象台

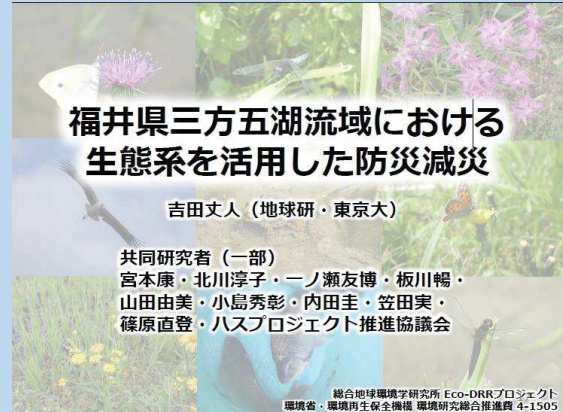


防災気象講演会の案内と発表資料の一部より

7

5 適応策の普及啓発

地域適応コンソーシアム中部地域事業の普及啓発活動として、（一財）気象協会が平成31年1月16日に開催された福井県地球温暖化防止活動推進員交流会において、気候変動適応に関する身近なテーマで講演を実施



講演の様子

8

6 年縞博物館の紹介（平成30年9月15日オープン）

福井県の水月湖の湖底堆積物「年縞（ねんこう）」について

- ・福井県の水月湖の湖底に眠る7万年もの連続した泥の縞模様「年縞」は、考古学や地質学の分野における世界標準の「ものさし」として、年代測定の精度を飛躍的に向上させた
- ・年縞に含まれる花粉やプランクトンからは、過去7万年間における、湖周辺の気候の変動や植生の変化などを年単位で復元することが可能
- ・堆積相の変化から洪水や地震、火山噴火などの自然災害が発生した周期を知ることができ、災害予測の新たな研究の進展に期待

展望 一年縞と私たちのこれから—

年縞からわかるこれまでの地球の気候変動の歴史、気候変動の仕組みを解説し、福井県で実際に見られる気候の変化や対応策などを紹介しています。また、これからの年縞研究に期待される役割について紹介します。



展示の紹介例（年縞博物館のHPより引用）

住所 福井県三方上中郡若狭町
鳥浜122-12-1

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週火曜日・年末年始

観覧料金

一般：500円 / 小中高校生：200円

若狭三方縄文博物館共通観覧券

一般：700円 / 小中高校生：280円

※団体（20名様以上）は2割引

電話 0770-45-0456

URL <http://varve-museum.pref.fukui.lg.jp/>



9

気候変動適応法の内容も加味した上で、
環境基本計画に記載の適応策を推進していきます。

福井県環境政策課 ホームページ

<http://www.pref.fukui.jp/doc/kankyuu/index.html>